

二〇二六年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験二期

国語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

「人生初の記憶」はいつ頃？

生まれた時の記憶があると主張する人が時々いる。<sup>x</sup>とても興味深い告白だが、赤ちゃんの脳の状態から考えると、ありえない話である。

そもそも大脳皮質が機能するようになるのが、生後3カ月を過ぎてからだ。大脳皮質は意識を制御する。aそれ以前の赤ちゃんは、何を  
見ているかの意識は、薄いか、ほとんどないと推測される。

それが生後3カ月を過ぎるくらいから、なんとなく意思の疎通を感じられるようになる。こちらの視線に合わせて笑う。確かに視線が一致したように思える。こうしたかわいらしい素振りから、「これこそが赤ちゃんだ！」と実感させられる時期となる。

それ以前の赤ちゃんの行動を観察しても、人間という感じがなかなかわからないところがある。ものは見えているし、聞こえてはいる。しかし、目がうつろで、ぼんやりと視野の周辺で捉えて見ているようだ。しっかりと意識して興味のある対象を見たり、聞いたりしているという印象は薄いのである。  
見る・聞くといった中枢の機能だけではなく、もつと基本的な機能も少々異なる。基本的な睡眠周期が24時間周期ではない。それはまさに、朝晩がないということである。身体の協調した運動もない。手と足が、脈絡なくばらばらんに動いているようにも見える。これらがすべて、そろいもそろって生後2カ月から3カ月を境に、大人と同じように整えられていくのである。それは、実験室で観察していても実感される。月ごとに赤ちゃんの成長を見ると、まるで別人のように変わっていくその振る舞いに、驚かされるところがある。

赤ちゃんの発達とは、非常に不思議な現象だ。眼球運動を詳しく調べてみると、さらに突っ込んだことが見えてくる。動いている物体に対する眼球運動は新生児でも観察できるが、運動方向による違いがある。実は、見ているものの動く方向によって、処理される脳の部位が異なるのである。「大脳皮質」と、それよりも古い脳の部位である「皮質下」だ。

これまでの研究からすると、生後2ヵ月までは「大脳皮質」で処理される方向への眼球運動は生じない。その一方、「皮質下」で処理される眼球運動は、新生児から観察することができる。つまり、目の前のものが動く方向によって目を動かせたり動かさなかったりするという、非常に不思議な現象が見られるのである。

これは、生後2ヵ月までの赤ちゃんは b がきちんと働いていないという決定的な証拠として扱われている。つまり、意識がはっきりしていないと言えるのだ。

これらの研究をざっと見ると、「人生初の記憶」は、少なくとも生後3ヵ月頃を過ぎてからと考えられる。

小さい赤ちゃんのいる家庭にお邪魔して、こんな経験をした人もいるだろうか。人見知りが始まった赤ちゃんに、なついてもらうために苦労しながら遊んであげるといった場合だ。やがて疲れてしまった赤ちゃん。その昼寝姿をしばらく眺めている。目が覚め、起き上がってさて遊びを再開しようとしたところで、「この人は誰？」という顔で大泣きされてしまう。つまり、眠る前の仲良しの記憶は、すべて消し去られてしまったのだ。

どうやら赤ちゃんの頭には、c は定着しにくいようだ。これは3ヵ月を過ぎても同様のことが言える。その理由は、赤ちゃん特有の性質である「新奇選好」にある。端的に言えば、「新しいもの好き」ということだ。新しいものに気づき、新しいものに注目する。実は赤ちゃんを対象とした心理実験も、この性質を利用することが多い。実験の手法となるほど、赤ちゃん一般に通用する基本の行動パターンなのである。

なぜそれほど新しいもの好きかというと、発達中の脳に刺激を与えるためだ。たとえば視力発達がある。赤ちゃんは複雑な柄が大好きで、そのときの視力に応じて見ることのできる、最も細かい縞しまを好んで見る。それにより、より細かいものを見ることができるようになる。発達につながっていると考えられている。さらには0歳後半になって立体視力が発達し始めると、立体感を持つものへと好みは広がる。立体的に見えるものを好んで見る。

好んで見るだけでなく、手も伸びる。赤ちゃんはあちこち勝手に手伸ばしをしているようにも見えるが、けっして適当に伸ばしているのではない。確実に手を伸ばして届くものに、好んで手を伸ばしている。こうした行動は当たり前のようにも見えるが、対象との距離をしっかりと頭の中で計算できている証拠でもある。

ある意味で、「好み」から赤ちゃん世界は広がっていくと言えるのだ。

## 古いものにしがみつく大人たち

<sup>Y</sup>赤ちゃんとは対照的に、脳が完成された大人は「古いもの好き」となる。赤ちゃんとまったく反対の性質だ。なじみのあるものに親しみを感じ、無意識になじみのあるほうを選択してしまう。ある意味、大人は自分の記憶を大切にしているとも言えるのだ。

この新しいもの好きから古いもの好きへの切り替わりは、4歳前後に生じると考えられている。実験から、その時期は明らかになっている。新しい玩具に触れさせて、しばらくしてから、「触れたことのある玩具」と「新しい玩具」のどちらが好きかを聞く。するとたいていこの頃を境に、新しい玩具から古い玩具に、好みが移行するようだ。人生初の記憶も、おおよそこの頃にあることが多いらしい。

大学の授業で、思い出せるいちばん古い記憶はいつかと聞くと、たいていの学生は3歳から4歳と答える。1歳や新生児の頃の記憶があると言い張る学生もいないではない。しかし、大脳皮質の発達を考えると、生後3ヵ月頃には意識を持った記憶が成立すると推測されるものの、エピソードとして長く維持される記憶は、さらに先のことだ。つまり、いわゆる記憶の定着は、3〜4歳の頃からはないと考えられるのだ。

ところで、「記憶」は、「d」とも強く関係している。私たち大人は、記憶している事物や事柄に引つ張られ、目の前のものをありのままの姿で見ることはない。リンゴの色の場合でも、「赤いリンゴ」という記憶のフィルターを通して見ているからこそ、リンゴを見て「赤い」と思い込んでいるだけのところもある。

大人は、成長とともに膨らました、大きな先入観を通して世界を見ているのである。なぜ先入観が作り上げられ、それに固執するのか……、それは記憶したものを懐かしがる「既知選好」によるものだ。できるだけ多くの刺激を得て神経細胞を増殖させていく赤ちゃん時代のあから「既知選好」に移り変わることは、脳の発達にとっては一大革命とも言えよう。生まれたばかりでまっさらな脳にできるだけ多くの情報を与える段階から、ほんとうに必要な情報を選択して収集する方向へのシフトである。

過去を好むことにより、過去から抽出された知識が蓄積される。この知識を使い、できるだけ少ないコストで情報を処理する。それは、生きるためのテクニクでもある。それは時には有利だが、時には判断を歪ませることもつながろう。それが「先入観」の正体だ。

既知選好の積み重ねによって、それぞれの文化に適応した見方を獲得していく。さらに、この親しみやすさを利用して、情報をうまく操作し、私たちの好みを操ることもできる。同じテレビCMが何度も繰り返し放映され、同じ商品名が連呼されるのも、このためだ。これは「単純接触効果」と呼ばれ、実験によって、好みがどのように操作可能かが明らかになっている。

たとえばこんな実験がある。たくさん顔写真を評価する。数が多いために、個々の顔を見た記憶は生じない。にもかかわらず、一度見せられた顔

写真への好意度は、見せられる前よりも高まったのである。

e 一歩進んだ別の実験もある。左右両手に女性の顔写真を一枚ずつ手にして見せて、どちらが魅力的かを判断させる。どちらがよいかを判断した後で、その顔のどこが魅力的かを答えてもらうのである。この実験では、手品のテクニックを使って、どちらが魅力的かを答えてもらった後に、左右の顔写真を気づかれないように入れ替える。つまり、魅力的でないと判断した顔について、「これはあなたが魅力的と判断した顔ですから、その魅力を説明してください」ということにするのである。

これで、顔写真をすり替えられたとすぐに気づいたのはたった10パーセント、そして魅力を説明した後でやっぱり変だと気づいた人も30パーセント程度だった。残りの大半の人たちは、写真のすり替えにまったく気づかず、魅力的でないと判断したほうの顔を「魅力的」だったと、淡々とその理由を説明していたのである。たとえば選んだ写真がロングヘアのはずだったのに、すり替えられた写真がショートヘアであったとしても、それに気づかずショートヘアが好きだからこの顔は魅力的なんだと説明するケースもあつたという。

衝撃の結果である。私たちの f は、実に簡単に操作されてしまうのだ。しかも、目の前の女性のどちらが魅力的かという重要な判断ですら、操作されるのだ。

(山口真美『赤ちゃんに学ぶ「個性」はどこから来たのか』より なお本文に適宜省略・改変を加えた)

問一 空欄 a ) f に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

|   |       |        |       |         |
|---|-------|--------|-------|---------|
| a | ア また  | イ だが   | ウ だから | エ あるいは  |
| b | ア 眼球  | イ 大脳皮質 | ウ 皮質下 | エ 身体    |
| c | ア 遊び  | イ 愛情   | ウ 記憶  | エ 新しいもの |
| d | ア 年齢  | イ 性格   | ウ 体験  | エ 意識    |
| e | ア さらに | イ ところが | ウ ただし | エ なぜなら  |
| f | ア 過去  | イ 好み   | ウ 表情  | エ 魅力    |

問二 傍線部X「とても興味深い告白だが、赤ちゃんの脳の状態から考えると、ありえない話である」について、筆者が「ありえない話」だと言っているのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人間の脳の発達はとてもゆっくりとしていて、3～4歳の頃にならないと自分が見たり聞いたりしたことを意識的に記憶することができないから。
- イ 人間の脳が記憶できる事柄には限界があり、赤ちゃんの頃の記憶というものは、子どもから大人へと成長していく中で少しずつ失われていってしまうから。
- ウ 人間の脳の発達から見ると、人生初の記憶は少なくとも生後3ヵ月頃を過ぎてからであり、長期的な記憶が形成されるのはさらに先のことだと考えられるから。
- エ 人間の脳には生まれてからの記憶が膨大に蓄積されているため、赤ちゃんの頃のような古い記憶を思い出すのは誰もが簡単にできるようなことではないから。

問三 空欄 あ に入れるのに最もふさわしい言葉を、本文中から四字で抜き出しなさい。

問四 傍線部Y「赤ちゃんとは対照的に、脳が完成された大人は『古いもの好き』となる」について、「古いもの好き」になることのメリット・デメリットとはどのようなことですか。その内容を「情報処理」「先入観」という観点から百字以内で答えなさい（句読点なども字数に含みます）。

問五 次の1～6の文について、本文の内容にふさわしいものには○を、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 赤ちゃんは生まれた時から自分が興味のある対象を意識して見たり聞いたりし、大人と意思を疎通することもできる。
- 2 生後2カ月までの赤ちゃんは眼球運動を処理する脳の部位が未発達なため、物体の動きに合わせて目を動かすことができない。
- 3 赤ちゃんが「新しもの好き」であるということは、脳を刺激し、身体機能を発達させることにもつながっている。
- 4 脳の発達の速さは人によって違うため、新しもの好きから古いもの好きへと移行する時期も人によってそれぞれ違っている。
- 5 人間は赤ちゃんから大人へと成長していくにつれて、目の前のものをありのままの姿で見ることができるようになっていく。
- 6 たくさんの顔写真を評価する実験で、一度見せられた顔写真への好意度が見せられる前よりも高くなるのは「単純接触効果」の一例である。

## Ⅱ 次の各問に答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 古い時代の制度をハイシする。
- 2 マンセイ的な洪滞が発生する。
- 3 記念式典をカイサイする。
- 4 外国の企業とケイヤクを結ぶ。
- 5 気候変動に注意をウナガす。

問二 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 農産物の収穫量が通減する。
- 2 それは唾棄すべき行為である。
- 3 輸入品を廉価で販売する。
- 4 有名な作家が逝去する。
- 5 強い風に吹かれて旗が翻る。

問三 次の1～5の四字熟語の□に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 心□二転
- 2 独断□行
- 3 晴□雨読
- 4 衆人□視
- 5 □言令色

問四 次の1～5の語句の表す意味として最もふさわしいものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

- 1 当節
  - ア 以前
  - イ 近ごろ
  - ウ しばしば
  - エ 長い間
- 2 称揚
  - ア 批判する
  - イ 感謝する
  - ウ ばかにする
  - エ 褒めたたえる

3 払底

- ア 多くの人から注目される
- イ 大事なことを全て忘れる
- ウ 似たようなものが次々と現れる
- エ 必要なものがすっかりなくなる

4 鉄面皮

- ア ずうずうしいこと
- イ つまらないこと
- ウ 強い意志をもっていること
- エ 代わり映えがしないこと

5 ほぞを噛む<sup>か</sup>

- ア だまされないように用心する
- イ 予想外のできごとに慌てふためく
- ウ 取り返しのつかないことを後悔する
- エ 状況に応じて適切に行動する

問五 次の1～5の単語の類義語をそれぞれ後の【語群】から選び、記号で答えなさい。

1 危惧

2 座視

3 落成

4 悠久

5 齟齬そご

【語群】

|   |                         |
|---|-------------------------|
| ア | 傍観                      |
| イ | 反駁 <small>はんぱく</small>  |
| ウ | 矛盾                      |
| エ | 着手                      |
| オ | 永遠                      |
| カ | 竣工 <small>しゅんこう</small> |
| キ | 嫉妬                      |
| ク | 懸念                      |

国語 解答用紙

I

|    |   |
|----|---|
| 問一 | a |
|    | ウ |
|    | b |
|    | イ |
|    | c |
|    | ウ |
|    | d |
|    | エ |
|    | e |
|    | ア |
|    | f |
|    | イ |

|    |   |
|----|---|
| 問二 | ウ |
|----|---|

|    |   |
|----|---|
| 問三 | 新 |
|    | 奇 |
|    | 選 |
|    | 好 |

|    |
|----|
| 小計 |
| 小計 |
| 小計 |

|    |
|----|
| 総計 |
|    |

受験番号

問四

|     |   |   |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|---|---|
| い   | が | 識 | き | コ | こ | 過 |
| う   | 歪 | が | る | ス | と | 去 |
| こ   | め | 先 | よ | ト | に | に |
| と   | ら | 入 | う | で | よ | 脳 |
| 。   | れ | 観 | に | 情 | っ | に |
| 95  | て | と | な | 報 | て | 蓄 |
|     | し | な | る | を | 、 | 積 |
|     | ま | っ | 一 | 処 | で | さ |
|     | う | て | 方 | 理 | き | れ |
|     | こ | 、 | 、 | す | る | た |
| 100 | と | 物 | そ | る | だ | 知 |
|     | が | 事 | う | こ | け | 識 |
|     | あ | の | し | と | 少 | を |
|     | る | 判 | た | が | な | 使 |
| 90  | と | 断 | 知 | で | い | う |

|    |
|----|
| 小計 |
|    |

II

|    |   |
|----|---|
| 問五 | 1 |
|    | × |
|    | 2 |
|    | × |
|    | 3 |
|    | ○ |
|    | 4 |
|    | × |
|    | 5 |
|    | × |
|    | 6 |
|    | ○ |

|    |
|----|
| 小計 |
|    |

|    |    |
|----|----|
| 問一 | 1  |
|    | 廃止 |
|    | 2  |
|    | 慢性 |
|    | 3  |
|    | 開催 |
|    | 4  |
|    | 契約 |
|    | 5  |
|    | 促す |

|    |       |
|----|-------|
| 問二 | 1     |
|    | ていげん  |
|    | 2     |
|    | だき    |
|    | 3     |
|    | れんか   |
|    | 4     |
|    | せいきよ  |
|    | 5     |
|    | ひるがえる |

|    |   |
|----|---|
| 問三 | 1 |
|    | 機 |
|    | 2 |
|    | 専 |
|    | 3 |
|    | 耕 |
|    | 4 |
|    | 環 |
|    | 5 |
|    | 巧 |

|    |   |
|----|---|
| 問四 | 1 |
|    | イ |
|    | 2 |
|    | エ |
|    | 3 |
|    | エ |
|    | 4 |
|    | ア |
|    | 5 |
|    | ウ |

|    |   |
|----|---|
| 問五 | 1 |
|    | ク |
|    | 2 |
|    | ア |
|    | 3 |
|    | カ |
|    | 4 |
|    | オ |
|    | 5 |
|    | ウ |

|    |
|----|
| 小計 |
| 小計 |
| 小計 |
| 小計 |
| 小計 |